



国際ロータリー 第2690地区 第10グループ  
**玉野ロータリークラブ**

■2009～2010年度 役員■  
 会長 東川 清隆  
 会長I/外 岸本 昌法  
 幹事 樋田 正則  
 副幹事 緋田 秀雄  
 S A A 松尾 洋二  
 副S A A 近藤 勇進

2009～2010年度  
 国際ロータリーのテーマ



国際ロータリー会長 ジョン・ケニー

# 週報

■事務局/〒706-0011 玉野市宇野1-11-1  
 TEL. 0863-33-2228 FAX. 0863-33-2225  
 ホームページ <http://www.tamano.or.jp/rotary>  
 E-mail [tamanorc@tamano.or.jp](mailto:tamanorc@tamano.or.jp)

■例会場/瀬戸大橋カントリークラブ  
 〒706-0153 玉野市滝1640-1  
 TEL. 0863-71-4500 FAX. 0863-71-4509

■例会日/毎週金曜日(12:30～13:30)

No.2040	
12月25日例会 プログラム	「上半期を終えて」 東川会長 樋田幹事
1月8日例会 プログラム	「年頭にあたって」 東川会長 樋田幹事
12月25日のメニュー	・帆立貝柱のチリソース炒め・豚ヒレ肉のザーザイ炒め・キュウリの甘酢漬け・ゴマ団子とチマキ・コーヒー

## 前回(12月18日)例会記録

出席報告	会員総数	33名	出席者数	22名	欠席者数	11名	出席率	66.67%	前回補正率	-
	前回補正者	-								
	欠席者	藤田君 星野君 林君 井上君 岸君 三谷君 仲田君 小野君 白石君 富永君 山田(次)君								

### 会長挨拶

皆様、ようこそお出でくださいました。12月13日(日)第21回「MOA美術館・玉野児童作品展」の表彰式に参加し、玉野ロータリークラブ賞を授与してきました。MOA美術館は、世界救世教の創始者、岡田茂吉氏が開設者であります。人々の美意識の高揚と家庭や地域の環境美化を図るため、日本の伝統文化として生け花や茶の湯、音楽活動、児童作品展など幅広い活動をしています。玉野では、市内全小学校から542点の応募でしたが、児童作品展は全国で行われており、書写・絵画の創作活動を奨励することで、「生命を尊ぶ心」「心豊かな人間」形成を目的として開催されています。

### 会長報告

- ・本日例会後、理事・役員会を開催します。理事・役員の方はお残りください。

### 幹事報告

- ・葛尾ガバナー事務所より①年末・年始事務所お休みのお知らせが届いております。②モントリオール国際大会参加のご案内が届いております。
- ・ハイライトよねやま No.118 が届いております。
- ・他クラブ週報、例会変更通知は回覧させていただきます。

### 臨時理事役員会議事録 12月18日

- ・エコライフ玉野への備品贈呈の件  
 蒸留装置を贈呈する 承認。
- ・下半期に特別会費10,000円を収集する 承認。
- ・次年度地区委員  
 青少年交換委員会に渡邊会員を推選する。

### 委員会報告

- ・社会奉仕委員会(三宅(孝)委員長):エコライフ玉野主催の「里山を守ろう!体験学習講座」第7回講座「竹林整備(竹伐採・竹割りなど)」が12月20日(日)10:00～16:00、水守宮下の広場(「和楽園」の裏)で開催されます。8名の参加申込みがございましたが、当日はカジュアルな服装で9:45までに駐車場にご集合ください。

### スマイル・ボックス

- ・渡邊君-本日卓話です。
- ・近藤君-名鑑紛失、お世話になりました。
- ・上原君-前回欠席。

・大西君—手術の為、早退します。

## プログラム 「今年の出来事—新型インフルエンザウイルス事情」 渡邊 正俊君

感染は、感染経路、人と病原体（ウイルス、細菌等）の相互関係から成り立ちます。人の抵抗力より病原体の力が弱ければ感染しません。人の抵抗力より病原体の力が強ければ病気が起こります。人の抵抗力と病原体の力が同等の際には、不顕性感染と呼ばれ感染はしても発病しない状態となります。これまでに人類が経験した大流行としてはスペインかぜ（1918年、世界で2,000万人以上、日本でも約38万人が死亡）、アジアかぜ（1957年）、香港かぜ（1968年）、ソ連かぜ（1977年）があり全てA型から生じたものです。

インフルエンザは高熱が出現し、全身症状があり普通のかぜより症状が強いのが特徴です。多くの場合は、数日から1週間で自然に改善します。しかし、乳幼児に見られる脳症や高齢者に生じる肺炎で、命に関わるような状態が生じる場合もあります。インフルエンザは主に、若年者で発生流行し、高齢者では圧倒的に死亡率が高くなります。2003年に中国及びベトナムで初めて確認されて以来、アジアのみならず世界各地で発生している死亡率の高い高病原性鳥インフルエンザ H5N1 が新型インフルエンザとして登場してくることが危惧されていました。その H5N1 の感染の心配をすり抜けるように、2009年2月下旬メキシコにてインフルエンザ様疾が発生し、豚インフルエンザ後に新型インフルエンザ AH1N1 と呼ばれるようになったのは今年の出来事です。新型インフルエンザは、「現代用語の基礎知識」選、2009年度流行語大賞でトップテンに12月1日に選ばれました。更に、12月11日に日本漢字能力検定協会の「今年の漢字」が「新」に決まりました。

日本では4月28日、舛添要一前厚生労働大臣は新型インフルエンザが発生したと宣言し「冷静な対応を」とコメント致しました。4月30日、WHOが、新型の豚インフルエンザ（この呼称が、ウイルスが豚を介して感染するという誤解を招き、豚に対する過剰な恐怖感、豚製品の敬遠など、養豚関係への配慮や宗教上の理由で「豚」という名称を忌避）を「インフルエンザ A (H1N1)」と呼称変更になりました。5月16日、空港での物々しい水際対策が続く中で、医療機関を受診した渡航歴のない神戸市の高校生から国内初の感染者が確認されました。それ以来、マスク騒動等、煽りに煽る過剰な報道が現在も続いています。6月11日、世界保健機構（WHO）がパンデミック（世界的大流行）を宣言。6月19日には、感染症予防法の「新型インフルエンザ等感染症」の1つに該当するとみなされ強制入院の対象でしたが、厚生労働省は方針を変更してから、季節性インフルエンザと同等の扱いとなりました。6月24日、岡山県でも新型インフルエンザ感染者が確認されました。10月16日、日本では、流行が「注意報レベル（定点医療機関あたりの患者数10.00以上）」に、更に11月6日は、「警告レベル（定点医療機関あたりの患者数30.00以上）」に引き上げになりました。11月には、岡山県での1医療機関あたりの患者数が県全域で44.48人、玉野市においても、新型インフルエンザ感染者数が最大に達しました。症状としては、潜伏期間1日から2日後、体温38度の急な発熱、咳、喉の痛み、鼻水、倦怠感、筋肉痛、頭痛、下痢、吐き気、嘔吐等が出現致します。診断は、臨床症状や迅速診断キットで行います。診断キットでA型と診断されたものは、現時点では新型インフルエンザと診断しています。今後はこれから流行する季節性インフルエンザとの区別は困難になります。国立感染症研究所の発表では、累積の患者総数は約1,414万人に達したと推計しています。12月16日の報道では、兵庫県で40歳男性が117例目として死亡確認されています。予防には、感染を防ぐ抗体を上げる事が大切です。その1つとして予防接種があります。しかし、季節性インフルエンザも、11月に既に在庫不足となり、医療機関においては診療と新型並びに季節性インフルエンザの予防接種の電話応対等で大変な時間を割くことになってしまいました。国民を不安にさせる報道しながら国民1人1人の冷静な対応・行動が欠かせないと後で反省を国民に促すような報道機関が今回も見受けられます。反省すべきは、国民に心配を煽る報道機関側にあるのではないかと思います。また厚生労働省も新型インフルエンザの予防接種の指針に対し国民や医療現場を混乱させています。次の新しい感染症が手薬煉を引いて待っていますよ。

I S e r v e .